

わくわく橘っ子

橘小学校

人権教育便り NO. 10

令和6年12月



橘っ子人権集会 ～いじめについて考えよう～



グループに分かれ、劇の内容について話し合いました。「いじめられている人は、早く周りの友達や家族に相談したほうがよい。」「いじめている人は、自分たちがいじめていることに気がつかないといけない。」「周りの子たちは、いじめを止めて、いじめられている子を守らなければいけない。」などの意見が出ました。

12月17日は、徳島県内の全小学校で「みんなでいじめ問題を考える日」でした。いじめを「しない・させない・見過ごさない」学校を自分たちの力でつくっていくために、橘小学校でも、各クラスで午前にいじめ問題に関する人権学習を行い、午後は、体育館で全校児童が集まり人権集会を行いました。

まず、人権・いじめ防止委員会の児童たちが、人権劇をしました。自分たちの生活の中で、ちょっとしたきっかけで、いじめがおこり、それをいじめと気づかないまま、いじめている側が集団心理で、エスカレートさせてしまう内容の劇です。

次に、小



また、校長先生のお話で、「いじめはどうすればなくなりますか？」と問いかけがありました。そこで「利他の心」という言葉を教えてくださいました。「みんなが、自分のことより人のことを優先し、人の幸せを願えば、いじめのない世界になります。」とおっしゃいました。



最後に、みんなで輪になって、心を一つにして歌を歌いました。校長先生のお話や歌の内容のように、これからも心優しい橘小学校の子供たちでいてほしいです。



児童の感想



○自分がいじめられたら、先生や家の人に言う。友達となかよくしたいから。(1年生)

○自分がいじめを見かけたら、すぐに注意する。もし、一人で注意できなったら、先生や友達と一緒に言う。みんながしあわせになってほしいから。(2年生)

- 自分が知らないうちに、いじめをしている子にさんせいしてしまっていたら、気づいたときに、いじめをやめてすぐにあやまる。(3年生)
- 自分がいじめる人にならないように、いつもの生活で気をつける。いじめている子がいたら、勇気を出して注意する。(4年生)
- もしも、自分がいじめる側になってしまったり、いじめられる側になってしまったら、それをいつでも相談できて、共に解決する友達が必要。ほくも、友達に相談されたら一緒に解決したい。(5年生)
- いじめている人には「なんでいじめるの?」と聞き、いじめをやめさせる。いじめられている人を見たら、「大丈夫?」と聞きに行く。もし、自分がいじめる側になってしまっていたら、相手がすごく傷ついているから、すぐにあやまりたい。(6年生)

～阿南市人権教育・啓発市民講座～

12月17日(火)に、阿南市文化会館で開催された阿南市人権教育・啓発市民講座に、本校・PTA人権教育推進部の方が参加くださり、感想をよせてくださいました。ご紹介します。

講師 菊池恵楓園入所者自治会 副会長 太田 明さん
 演題 「人権回復を求めて」ーハンセン病問題の現状と課題ー

太田明さんは、熊本県にある国立療養所、菊池恵楓園に子供の頃入所され、その後、成人されてからも再入所を繰り返し、ハンセン病に対する偏見と差別に苦しんでこられました。

現在は、ハンセン病に対する偏見と差別を打破するために、力強く前向きな気持ちで様々な活動に取り組み、全国でご講演されています。

ハンセン病について、当事者の生の声を聞くことで、正しい知識を身につけ、偏見のない世に中をつくっていきたいと心から強く思いました。

